

縦断シリーズ⑧

仁川から武庫川河口まで

第 200 回 武庫川エコハイク

2024.2.10 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。丹波篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は丹波篠山市にある。丹波篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して2年半にわたり協議した結果、平成22年(2010)10月、20年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

阪急仁川駅 大正10年(1921)阪急西宝線(西宮北口-宝塚間)が開通、仁川に駅が設置された。阪急神戸線(大阪-神戸)開通は前年の大正9年。

仁川 六甲最高峰の東部にある「石の宝殿」付近を源流の一つとする仁川は、裏六甲ドライブウェイ沿いを流れ、甲山の北側を通り、仁川渓谷を抜けて流れる。上流3分の2は山間部を、下流3kmは住宅地を流れ、武庫川に注ぎこんでいる全長9.3kmの川。**名前の由来**には2つの説。一つは「贄川(にえかわ)」の転じたもので、西宮戎社に山の幸を奉る贄部(にえべ)がこの川の流域に住んでいたために付いた名。もう一つは、仁川が天井川(上流から流されて堆積した土砂で、川床の方が周囲より高くなった川。六甲山系には数多く見られる)であり、降雨がないと水流もじむ程度しかない川なので「滲(にじむ川)」という意味での「滲み」が「に」に転じたと言われる説がある。仁川改修工事、大正13(1924)年、仁川の堤防が改修され「仁川住宅地」として発展した。

百間樋 武庫川新橋の下流に百間樋井堰があり、武庫川右岸の農業用水を取水する。仁川の底を暗渠で横断し下流に送水する。横断部分がおよそ百間あるので百間樋と呼ばれる。川西川に取水口。百間樋公園の下を流れ公園南側に排出される。一時、西宮上水にも使用される。

武庫川との合流点 武庫川右岸で合流。仁川の左側を流れる川西川も合流する。

武庫川サイクリングロード 一里山町から東鳴尾町まで全長7.1kmのサイクリング専用道路。

髭の渡し跡 西国街道の渡し跡、左岸側(尼崎市)に常夜燈、庚申塚(こうしんづか)が残る。右岸側(西ノ宮)は報徳学園付近に表示箇所あり。

7号床止工 河床の土砂が流出しないように設けられている施設。H=1.7~1.9m平成12年改修、ここから河口まで7箇所ある。武庫川は上流三田地区よりも下流の大阪平野の方が河床勾配が大きい。

常松中継ポンプ場 左岸にある武庫川広域下水道の中継ポンプ場(以下中継ポンプ場は同じ)。宝塚市、伊丹市、尼崎市の広域下水道で河口の浄化センターまで送る。常松の地名はこの辺り常なる松が多かったことからという。

山陽新幹線武庫川橋梁 山陽新幹線の橋梁。昭和47(1972)年新大阪から岡山間開通。

甲武橋 国道171号線が渡る。明治42(1909)年髭の渡しの代替えとして架設。橋名は右岸の甲東村、左岸の武庫村の名から命名された。昭和28(1951)年新橋が開通。昭和40(1965)年上り線が架橋された。連続形式の溶接折橋として戦後初。武庫川の治水計画の基準点。

アコン樋跡 江戸時代に武庫川から農業用水として取水していた樋の一つ。

甲武橋水位観測所 甲武橋下流にある。6号床止工の上流側

6号・5号床止工 甲武橋と阪急神戸線鉄橋の間に2箇所の床止工がある。6号H=1.3~1.5m平成11年改修。5号H=1.3~1.5m平成9年改修、阪急橋梁の上流300m。

中新田浄水場 淀川から引水する西宮市工業用水の浄水場。

水位標 新旧の水位標、新田水位観測所と文久元年(1861)建立の水位標(復元)がある。

瓦木中継ポンプ場 阪急電鉄橋梁上流右岸側(日野町)にある。武庫川下流広域下水道の施設。瓦木の地名は武庫川氾濫原の「河原」木から来ているといわれる。

阪急神戸線橋梁 阪急神戸線武庫川橋梁。2004年にコンクリート製橋梁に架け替えられた。神戸本線の開業は大正9年(1920)十三~神戸(上筒井)。

上武庫橋 守部の渡しの代替えとなる。昭和3年(1928)に架設、現在の橋は平成20年架設。

4号床止工 上武庫橋と名神橋梁の間にある。H=1.8~2.0m、平成9年改修。

守部の渡し跡 伊丹から西宮にあたる脇街道の一つ「津門の中道」の渡し。

山手大橋 山手幹線の橋梁。平成14年(2002)架設され尼崎市と西宮市がつながる。

南武中継ポンプ場 JR東海道線橋梁上流左岸にある。

JR神戸線武庫川橋梁 明治7年(1918)全国初の鉄橋。明治29年(1896)複線化、昭和12年(1937)複々線化。

3号床止工 JR神戸線の直ぐ下流にある。H=1.2~1.4m平成9年改修したが、今回改築計画/全断面魚道に。

枝川樋門跡 旧枝川締め切りにより残された樋門跡。

枝川 弘治3年(1557)の武庫川氾濫により枝川が出来た。更に元文5年(1740)申年の枝川氾濫で申川が出来た。明治に入って29、30、36、38年と連続して氾濫したため武庫川改修が必要となり、枝川、申川は廃川となり、埋め立てられ、大正12年(1923)に竣工。この結果土地81.7haで工事費100万円を含めて400万円で阪神電鉄に売却された。

旧枝川跡 阪神電鉄が旧河川敷を一括譲受。甲子園地区住宅開発、甲子園球場、遊技場などを作った。県はこの売却代金で武庫川改修、国道2号線建設に伴う武庫川大橋の建設に当てた。

旧甲子園ホテル 昭和5年(1930)帝国ホテル支配人林愛作の理想に基づいて建てられたリゾートホテル。建築家フランク・ロイド・ライトの弟子遠藤新によって設計されライト流の空間美学を忠実に受け継いだ建築。現在は昭和40年(1965)に武庫川学院が譲り受けた上甲子園キャンパス甲子園会館となっている。国指定有形文化財。

鳴尾浄水場 西宮市南部に給水する浄水場。旧甲子園ホテル北側にある。水源は井水。

武庫大橋 国道2号線に架かる橋。これまで旧国道に頼っていた東西幹線を大動脈に代わるため現在の2号線が建設され、これに伴い大正15年(1926)完成。全長210m。景観に配慮した近代土木遺産(平成18年度)。親柱、バルコニーなどに大正モダニズムが各所に残る。

2号床止工 武庫川大橋の直ぐ下流にある。H=1.0m。改築計画/全断面魚道に。

小管根水位観測所 武庫大橋下流にある。

1号床止工 武庫川橋すぐ上流にある。H=0.7m。撤去計画。

西新田の渡し跡 中国街道の渡し。西宮からは「小松の渡し」という。

ガス管橋 大阪ガスのガス管橋。

武庫川橋 旧国道(中国街道)に架かる橋。昭和50年(1975)架橋、それ以前は不明。

阪神電鉄橋梁 橋梁上に武庫川駅がある。明治38年(1905)阪神電気鉄道開通。阪神電鉄橋梁低水護岸工事計画。

潮止堰 海水の遡上を防止する為に設けられ、平成5年改築され現在は可動堰。撤去計画。

阪神高速神戸線橋梁 昭和56年(1981)開通。

南武橋 臨港線に架かる橋。昭和33年(1958)架橋。河川改修で周辺の河床掘削に伴い不安定となるため、南武橋は架け替えとなる。新橋は令和7年度完成。

大庄ポンプ場 南武橋下流左岸にあり、尼崎市営の雨水の排水ポンプ場。

武庫川終点 阪神高速道湾岸線橋梁下右岸側と同橋梁少し上流の左岸を結んだ線が武庫川の終点。

武庫川唯一の干潟 武庫川右岸、阪神高速湾岸線の下流で武庫川唯一の干潟が見られる。大潮の時期のみ出現する。

阪神高速湾岸線武庫川橋梁 平成6年(1994)開通。

防潮堤 昭和25年(1950)阪神間を襲ったジェーン台風による高潮で尼崎市及び西宮市南部は大きな被害を受けた。その後防潮堤が築堤された。

鳴尾浜臨海公園 フラワーガーデンを中心とした「花と緑と小川のゾーン」と「海の見える丘ゾーン」があり、「海の見える丘ゾーン」には海釣り広場があり人気スポットとなっている。

阪神武庫川線 阪神武庫川駅と州先(すさき)を結ぶ武庫川線に昭和19年(1944)に川西航空機への輸送の為に開設された旧国鉄線(西ノ宮～鳴尾/現洲先)が乗り入れ。狭軌と広軌の3本のレールがあった。その後、浜甲子園団地が建設されるのに伴い武庫川団地前駅まで延長された。

兵庫県武庫川下流浄化センター 左岸河口にある。西宮市、宝塚市以南の浄化センター。

現在武庫川下流域の河川整備内容 近年の豪雨被害を踏まえ、令和3年度から全面的に工事が進められている。武庫川の下流部築堤区間(河口～JR 東海道線:約5km区間)では、河床掘削、護岸整備、床止工改築、南武橋架替などの工事に取り組んでいる。この下流部築堤区間は、魚類等が移動困難な床止やコンクリート護岸があり、厳しい生息環境にあります。この為、工事に合わせて生物の生息環境の改善に努め、自然石を活用した護岸整備、全断面魚道の設置、潮止堰の撤去による汽水域拡大などの取り組み工事が行われている。潮止堰の撤去工事は令和6年度予定、2号床止工下流で砂干潟の創出が期待される。主な工事内容は、河道拡幅(阪神高速湾岸線～JR 東海道線橋梁下流 L=5.0km)令和9年度完成予定。堤防強化(南武橋～仁川合流点 L=13.5km)平成30年度完成。他、河川の機能を維持するための堆積土砂撤去・樹木伐採など。

武庫川水系河川整備計画(武庫川の川づくり)

平成21年兵庫県の武庫川流域委員会が「ダムによらない総合治水」を答申し、これを元に平成23年県は国交省の同意を得て計画期間20年間の「武庫川水系河川整備計画」を策定した。治水対策に加えて環境対策も盛り込まれた。

内容は1. 河川対策、2. 流域対策、3. 減災対策である。下流部については次のとおり。

1. 河川対策
 - (1) 河道掘削(JR 東海道線橋梁下流から河口まで: 潮止堰・床止工の撤去、河道・高水敷の掘削)
 - (2) 堤防強化(南武橋～仁川合流点: 浸透対策、護岸工)
 - (3) その他(遊水池整備、青野ダム活用)
2. 流域対策(校庭貯留、公園貯留、ため池貯留など)
3. 減災対策
 - 環境対策 汽水域の拡大(横断構造物の撤去による生物の移動の連続性確保)
 - 干潟の創出(生物多様性向上)